

■今月の特選句

2017年5月

春場所に鼻息を聞くインタビュー

寿命秀次

この句を絵に描くなら、大きな鼻と画面いっぱいの鼻息、それからマイクだろうね。「ハアー、ハアー、ハアー」。録れたてホヤホヤの優勝の鼻息でした。

四月馬鹿なによりうまい親の脛

青木輝子

「馬鹿を見たけりゃ親を見ろ」と言うが、黙って脛を齧らせてニコニコするのは親なればこそ。いつまでも齧る馬鹿息子には脛に辛子を塗っとくか。

村度を屁とも思はぬ四月馬鹿

田村米生

お役人や政治家の姑息なゴマスリを村度という。それが国の利益を損なうわけだが、そのことを屁とも思わぬのは、やはり「臭い仲」だからである。

春愁や廁のボタンどれがなに

原田 曄

最近のトイレは機能があれこれついて複雑。どれが何の機能か確かめるために、覗きながらボタン押すと顔面シャワーになるからご注意くださいね。

たんぽぽや人逝く処みな同じ

小川鈍太

親鸞上人の教えに「善人なほもつて往生をとぐ。いはんや悪人をや」があるが、そういうことなのか。しかし、本物の悪人が行くところは嫌じゃ。

昭和の日企業戦士ははや猫背

柳 紅生

日本の今日があるは、昭和という時代をがむしゃらに支えた企業戦士のお陰ぞ。猫背となった方々への感謝を、よもや忘れてはなるまいぞ。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

大笑いして捻転の鯉のぼり

・・・風が止んだら落胆のてい

西をさむ

蒟蒻にむしろ同情針供養

・・・蒟蒻供養したらええやろ

花岡直樹

起き上がり小法師よいしよと春立たず

・・・体操ニッポン着地成功

稲葉純子

無礼講なれど気疲れ花疲れ

・・・会社の人と花見はするな

八洲忙閑

この村の過疎にはあらず幟かな

・・・幟の文字に産めよ増やせよ

吉原瑞雲

大岩のごろごろ山の笑ひけり

・・・地震がおきたら大変なのよ

工藤泰子

出る杭の争奪戦や土筆狩り

・・・土筆の場合打たず引き抜く

山下正純

ルビなしで読めぬ名ばかり入学子

・・・ふりがな忘れ立ち往生に

飛田正勝

春暁や目覚しいらぬ齢にて

・・・二度寝したのにまだ六時前

本門明男

居酒屋の酢味噌にまみれホタルイカ

・・・酒の肴は指でつまんで

山本 賜

ですますを使いこなして入学児

・・・この子もいつかヤンキー言葉

日根野聖子

靴先も髪も尖んがり新社員

・・・礼儀知らずで突っかかるかも

久松久子

春寒や立て付け悪ろき腰と脚

・・・蝶番(ちょうつがい)にはサプリメントを

下嶋四万歩

■今月の滑稽句

- | | |
|---|----------------------|
| 【佳作】めでたしやさくら開花に沸く日本
泣き笑いドラマのありし四月尽 | 青木輝子
青木輝子 |
| 【佳作】川床の岩盤の上亀あまた
青空に丁丁発止飛機ふたつ
草青む遊歩の域も広がりにて | 青山桂一
青山桂一
青山桂一 |
| 春眠を電気ドリルの音が触はる
近藤勇渡部勇春闌くる | 赤瀬川至安
赤瀬川至安 |
| 【佳作】ぼた餅を怖がつてゐる万愚節 | 赤瀬川至安 |
| 【佳作】マリリンがスカート押さへ春きざす
美魔女をりて若き燕を傳かせ | 荒井良明
荒井良明 |
| 【佳作】へそくりは泡と消えたる四月かな
東西をせめて狂乱花吹雪
放屁のゆくへ白靴知ってをり | 井口夏子
井口夏子
井口夏子 |
| 支離滅裂の枝ぶりもよろし木瓜咲(わら)う | 池田亮二 |
| 【佳作】犇(ひしめ)いて団塊老の日向ぼこ | 池田亮二 |
| 鼻のかぜ花水花垂れ春の風邪 | 泉 宗鶴 |
| 【佳作】八十路春ただひたすらのラストラン
青春や春の万年青の若芽かな | 泉 宗鶴
泉 宗鶴 |
| 我ガ皇祖皇宗國ヲ桜散る
舟賃を五文に値下げ春の川 | 伊藤浩睦
伊藤浩睦 |
| 【佳作】伊勢参耶蘇なんですと断られ | 伊藤浩睦 |
| 急ぐべし我欲を切れば芯の春 | 伊藤洋二 |
| 【佳作】行春や半導体のお灯明
鶏頭の啄んでゐる癩の種 | 伊藤洋二
伊藤洋二 |

電柱も電線もなし空に凧	稲沢進一
日の暮れて思ひ出す人白木蓮	稲沢進一
【佳作】我古稀といふといへども春の朝	稲沢進一
制服を脱ぐや蝶の羽化のごと	稲葉純子
【佳作】ドーナツの穴より覗き春の雲	稲葉純子
後続のパトカー左折春の闇	井野ひろみ
【佳作】誕生日四月一日本当よ！	井野ひろみ
和菓子屋に桜か椿か餅迷ふ	井野ひろみ
プリクラの写真を卒業アルバムに	上山美穂
菜の花は重信川の髪飾り	上山美穂
【佳作】ワンピース余寒の街を小走りに	上山美穂
春眠や顎を支へし石仏	氏家頼一
遠足の子の転がせし握り飯	氏家頼一
【佳作】あつぱつぱ今ワンピース夏は来ぬ	氏家頼一
【佳作】人間は欲のかたまり萬愚節	梅岡菊子
土筆摘むつくし一家をねこそぎに	梅岡菊子
横並びチューリップ美人のコンテスト	梅岡菊子
クローバの冠のせて女の子	梅野光子
【佳作】花吹雪はかまの裾にからみつき	梅野光子
花曇りの空に恒彦旅立ちぬ	梅野光子
早々と北窓開ける子沢山	越前春生
反抗の智恵もさづかり智恵詣	越前春生
【佳作】おしゃべりの終りがなくて桜餅	越前春生

くまもんを剥げば土偶や春の夢 ギョエテと始まるチェロや春の夢	緒方順一 緒方順一
【佳作】 ぜんまいで動く幼や青き踏む	緒方順一
【佳作】 PMの風にダウンの鯉のぼり 春灯やスマホに狂う子ども部屋 山つつじ萌えて気を引く恋心	岡野 満 岡野 満 岡野 満
一万と九年面壁亀鳴けり	小川鈍太
【佳作】 手の届く所まで来し彼岸かな	小川鈍太
いつぱしの口きく車内新社員 どっこいしよ隣も老いの花筵	加川すすむ 加川すすむ
【佳作】 桜湯に浮かぶ両家の美辞零句	加川すすむ
春眠のできぬ頻尿生欠伸	川島智子
【佳作】 携帯もスマホもなくて長閑なり 福島为天・人災や三・一一	川島智子 川島智子
春の星高梨沙羅の尻が飛ぶ	久我正明
【佳作】 ものの芽や口に合うもの合わぬもの 目薬は月の雫や花粉症	久我正明 久我正明
【佳作】 啓蟄の刷新人事うごめけり 消えゆくは飛行機雲か春おぼろ	工藤泰子 工藤泰子
幼名はロベルトと言ひ日向ぼこ	桑田愛子
【佳作】 水漏れのポツリポツリの春の水 知る人のことごとく去り花は葉に	桑田愛子 桑田愛子
下萌というて娘は頬を染め 踊り子を離れぬ蝶に野次が飛ぶ	小林英昭 小林英昭
【佳作】 艶つばき縁切寺の落椿	小林英昭

スーパーにも褐色のまま新若布 枝垂梅枝垂るる枝も直線に 【佳作】 買置の馬鈴薯芽吹き緑化せり	佐野萬里子 佐野萬里子 佐野萬里子
亀鳴くや信じるものは騙される 【佳作】 あの世とは遠くて近しかぎろひぬ	下嶋四万歩 下嶋四万歩
【佳作】 埃しか付かぬ品買ふ骨董市 春旅の寝台列車寝付かれず	壽命秀次 壽命秀次
【佳作】 物臭な男やもめや春炬燵 譲られし優先席や花粉症 方便の問診票や春愁ふ	白井道義 白井道義 白井道義
【佳作】 百万円贈った返した四月馬鹿 春愁や花粉薬疹アレルギー	鈴鹿洋子 鈴鹿洋子
年度替り身ぶり手ぶりの農業経営論 【佳作】 農業日誌 ナスの芽なかなか出てこない ごちそうはないがぢぢばば元気	鈴木和枝 鈴木和枝 鈴木和枝
春一番車に乗って営業に 【佳作】 スーツ着て業務対応春の風 ズボン履きYシャツ着てゆく彼岸かな	鈴木哲也 鈴木哲也 鈴木哲也
昼の酒頭の中は蜃気楼 抜参土産配ってばれにけり 【佳作】 啖呵売暮れりや光ると蛍売	高田敏男 高田敏男 高田敏男
【佳作】 だまされてだましそこねて万愚節 バカヤロウ車で叫ぶ春愁 閣閣と蛙はなくとおしえらる	高橋きのこ 高橋きのこ 高橋きのこ
春の日の釜ヶ崎燃えるなりけり ひやとひの選挙を出たる春の朝 【佳作】 西成署のてんやわんやよ春の夕	田中 勇 田中 勇 田中 勇

首相には悩みの尽きず木下闇	田中早苗
かくもまあ荒畑中の母子草	田中早苗
【佳作】うららかや脳の回線乱れたる	田中早苗
【佳作】しゃぼん玉吹くのも顔のストレッチ	田村米生
春雷の一喝鳥鳴きやめり	田村米生
桜花そんなに急いで散らないで	津田このみ
【佳作】桜散る人の心が重たくて	津田このみ
親は子を子は親喜ばす子どもの日	津田このみ
星になる齡祝ふや四月馬鹿	飛田正勝
【佳作】加害者も被害者もみな花筵	飛田正勝
古都の春和服美人の外国人	中井 勇
【佳作】夢うつつ起きたつもりの大朝寝	中井 勇
ゆったりとただゆったりと春の暮	中井 勇
スマホ片手にせつかくの花の下	新島里子
【佳作】舌出していたづら好きの浅蜷らし	新島里子
蛇穴を出でてはてきてきなくさし	新島里子
想像のつかぬ葉桜見にゆくか	西をさむ
【佳作】メーデーの手持無沙汰のお巡りさん	西をさむ
【佳作】花開きここにもあったか桜の木	花岡直樹
花冷と冷たさ競うビールかな	花岡直樹
菜の花忌妻は徳川吾は石田	原田 曄
【佳作】沈丁花リバーシブルを裏返す	原田 曄
渡り鳥迷ふ旅行社倒産す	久松久子
【佳作】揚雲雀雲を掴みに行つたきり	久松久子

- | | |
|--|-------------------------|
| 【佳作】 春の昼秒針音てふ催眠術
初桜くすつと笑つたやうにかな | 日根野聖子
日根野聖子 |
| 潔よし乙女椿の散りぎわは
【佳作】 春ですね恋猫闇に飽きもせず
一面に敷きつめ菜の花の黄のシート | 廣田弘子
廣田弘子
廣田弘子 |
| 旋盤の真鍮切粉陽炎へり
【佳作】 菜種梅雨ドリンク剤添ふ置き菓
マンションの寡婦細き目の陶(すえ)の雛 | 藤岡蒼樹
藤岡蒼樹
藤岡蒼樹 |
| 卒業の子に母の照れ笑い
【佳作】 朧月ファースト政治夢果てぬ
血税と豊洲の春や雨に散る | 細川岩男
細川岩男
細川岩男 |
| 【佳作】 飛梅の咲き終へてなほ匂ふかな
春眠の続き道後の湯につかり | 本門明男
本門明男 |
| 薬師如来はファンに囲まれ乳母桜
うぐひすはベエトウベンが好きらしい
【佳作】 白木蓮ランドマークとなつてゐる | 松井寿子
松井寿子
松井寿子 |
| ヤクルトレディと四月馬鹿をし合いけり
花冷や大仏の胎内で温め合う
【佳作】 鯉のぼり引っ掛けドローン目を回す | 松井まさし
松井まさし
松井まさし |
| 【佳作】 雨の中それでも意地の花見酒
花衣解けば付け文否鼻紙
食べた数今年も負けていちご狩り | 南とんぼ
南とんぼ
南とんぼ |
| 【佳作】 測る度違ふ薄暑の太つ腹
四月馬鹿戸籍探しに三途まで
帳尻の疣痔を合はす四月馬鹿 | 椋本望生
椋本望生
椋本望生 |
| 【佳作】 目高浮く春一番もなんのその
春泥に足をとられて大統領
山笑ふ浜名の湖(うみ)の声変り | 村松道夫
村松道夫
村松道夫 |

- 【佳作】 巢作りの燕にエール惜しみなく
復興の道遥かなり蓮華草
卒業の最後のひとり見送る樹
百千草
百千草
百千草
- 一寸の言い分聞きし手打ちの蚊
五線譜をはみ出てをりぬ花吹雪
【佳作】 窓際で騒ぎ立てゐる迷子蜂
森岡香代子
森岡香代子
森岡香代子
- 筍のお裾分けをばお裾分け
葱坊主カラオケマイクのかたちして
【佳作】 恋猫の求愛万国共通語
八木 健
八木 健
八木 健
- 【佳作】 禁断の恋も生まれて花むしろ
危な絵のごと裾の乱るる青嵐
八洲忙閑
八洲忙閑
- 蜥蜴いざアドベンチャーと穴を出づ
不機嫌の妻に猫なで連翹忌
【佳作】 君の名はネーブル問われ慣れてをり
八塚一青
八塚一青
八塚一青
- 【佳作】 卒業期女房も初期化してみたい
毒舌の御毒見役の花の宴
柳 紅生
柳 紅生
- 愛猫にふられし戻る初夏の旅
好物のリンゴ突きしメジロかな
【佳作】 施設へと心の拒絶初夏の朝
柳澤京子
柳澤京子
柳澤京子
- 【佳作】 出立にひと役買ふや名残雪
奥寺に光り満たすや乳母桜
山下正純
山下正純
- 三月の来客赤い深海魚
【佳作】 ひきがへる吾も大学の裏に住む
山本 賜
山本 賜
- 艶聞も咲かせてをりぬ花筵
認知症演じもしては木の葉髪
【佳作】 早乙女はもともと腰の曲がりをり
横山喜三郎
横山喜三郎
横山喜三郎
- 情を張り春の賜杯を抱く力士
【佳作】 草矢にてコケの浅知恵象を撃つ
吉原瑞雲
吉原瑞雲